

全国学力・学習状況調査 東浦町の調査結果について

令和7年度全国学力・学習状況調査 東浦町の調査結果について

令和7年4月17日（木）に実施された全国学力・学習状況調査について、東浦町の調査結果の概要、及び調査結果を踏まえた改善策をお知らせします。

1. これまでの経過

4月 17日 (木)	令和7年度 全国学力・学習状況調査の実施
7月 14日 (月) ~	個人結果の配付
7月 14日 (月) ~	町内各小中学校にて調査結果の分析と改善策検討
11月 7日 (金)	定例教育委員会にて調査結果を踏まえた改善策検討
11月 28日 (金)	調査結果の町HP掲載

2. 全国学力・学習状況調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

3. 東浦町対象児童生徒数

- 小学校第6学年児童 399名
- 中学校第3学年生徒 432名

4. 調査内容

(1)教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

それぞれ次の（ア）と（イ）を一体的に出題

- (ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- (イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

5. 教科に関する調査の結果

- 小学校では以下のような結果が見られた。

【国語】愛知県の平均正答率・全国の平均正答率ともにやや低い結果が見られた。

【算数】愛知県の平均正答率・全国の平均正答率ともにやや低い結果が見られた。

【理科】愛知県の平均正答率・全国の平均正答率ともにやや低い結果が見られた。

○中学校では以下のような結果が見られた。

【国語】愛知県・全国の平均正答率ともにほぼ同じ結果が見られた。

【数学】愛知県の平均正答率よりやや低く、全国の平均正答率よりやや高い結果が見られた。

【理科】愛知県・全国の平均正答率ともにほぼ同じ結果が見られた。

本町での~~(※)~~よい傾向や課題、結果、及び問題(一例)については以下のとおりです。

(※):全国平均正答率を5%以上、上回るもの(○)と下回るもの(●)

(1) 小学校

○国語

「情報の扱い方に関する事項」「A 話すこと・聞くこと」に特に課題が見られました。「我が国の言語文化に関する事項」「B 書くこと」については全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。

●「情報の扱い方に関する事項(一例)」

- ・情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る。(話し合いの記録の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する。)

●「A 話すこと・聞くこと」に関する問題(一例)

- ・目的や意図に応じて日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討することができるかを見る。
(話し合いの様子における小森さんの傍線部の発言を説明として適切なものを選択する。)

●「B 書くこと」に関する問題(一例)

- ・図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る。
(山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として、適切なものを選択する。)

○算数

「C 変化と関係」「D データの活用」については全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。その他の領域においては全国の平均正答率とほぼ同じ結果が見られました。

●「C 変化と関係」に関する問題(一例)

- ・伴って変わる2つの数量の関係に着目し、問題を解決するための必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る。
(使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために必要な事柄を判断し、求め方を書く。)

●「D データの活用」に関する問題(一例)

- ・簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかを見る。
(示された表から春だいこんや秋冬だいこんより、夏だいこんの出荷量が多い都道府県を選ぶ。)

○理科

「エネルギーを柱とする領域」「生命を柱とする領域」については全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。記述で答える問題にやや課題が見られました。その他の領域においては全国の平均正答率とほぼ同じ結果が見られました。

●「エネルギーを柱とする領域」に関する問題(一例)

- ・電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかを見る。

(ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く。)

●「生命を柱とする領域」に関する問題(一例)

- ・レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかを見る。

(レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く。)

(2)中学校

○国語

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、わずかに高い結果が見られました。その他の領域においては、全国の平均正答率とほぼ同じ結果が見られました。

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問題(一例)

- ・文章に即して漢字を正しく使うことができるかどうかを見る。

(変換した漢字として適切なものを選択する。 (かいしん))

○数学

「関数」については、全国の平均正答率よりやや高い結果が見られました。その他の領域においては、全国の平均正答率とほぼ同じ結果が見られました。

○「関数」に関する問題(一例)

- ・一次関数 $y = ax + b$ について変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかを見る。

(一次関数 $y = ax + b$ について、 x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める。)

○理科

「生命を柱とする領域」については全国の平均正答率よりやや高い結果が見られました。その他の領域においては、全国の平均正答率とほぼ同じ結果が見られました。

○「生命を柱とする領域」に関する問題(一例)

- ・水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかを見る。

(生物 1 から生物 4 までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する。)

6. 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

学習状況(学習意欲・学習方法・学習環境等)について、全国及び愛知県と比較してよい傾向や改善を図りたい項目は以下のとおりです。

(1)よい傾向

- 朝食を毎日食べている割合が高い。(小学校・中学校)
- 将来の夢や目標を持っている割合が高い。(小学校)
- 人が困っているときは進んで助けている割合が高い。(小学校・中学校)
- いじめはどんな理由があつていいかと思っている割合が高い。(小学校・中学校)
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている割合が高い。(小学校・中学校)
- 友達関係に満足している割合が高い。(小学校・中学校)
- 普段の生活の中で幸せな気持ちになる割合が高い。(小学校・中学校)

- タブレットを活用することについて、分からぬことがあったときすぐに調べることができると考えている割合が高い。（小学校・中学校）
- 国語の授業で、先生は良いところや前よりできるようになったところはどこか伝えてくれると答えた割合が高い。（中学校）
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている割合が高い。（小学校）

（2）改善を図りたい項目

- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う割合が低い。（小学校）
- 地域や社会をよくするために何かしたいと思っている割合が低い。（小学校）
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができると答えた割合が低い。（小学校）
- 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると答えた割合が低い。（小学校）
- タブレットを活用することについて、情報を整理する（図や表やグラフや思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると答えた割合が低い。（小学校）
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている割合が低い。（小学校・中学校）
- 算数の問題の解き方がわからないとき、あきらめずにいろいろな方法を考えていると答えた割合が低い。（小学校）
- 理科の勉強が好きという割合が低い。（小学校）
- 理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思っている割合が低い。（中学校）
- 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見い出したりすることができると答えた割合が低い。（小学校・中学校）
- 今回の調査で書く問題で回答しなかったり回答を書くことを途中であきらめたりしたものがあったと答えた割合が高い。（小学校・中学校）

7. 調査結果を踏まえた改善策

以上の調査結果を踏まえ、東浦町教育委員会では以下の取組を推進します。

（1）学習意欲の向上、学習習慣の定着を図るために、授業改善を進めます。

＜具体的な取組＞

- ・校内外での職員研修を通して、主体的・対話的で深い学びの授業の実現に向けて共通理解を図り、粘り強く学習に取り組み、達成感、満足感を得ることができる授業づくりを進めます。
- ・個別最適な学びを意識した授業づくりを進めます。また、教育活動全体を通して自分の考えを明確にし、それを基にした話し合い・伝え合いの時間を取り入れ、考えを深めたり、広げたりすることができるような授業づくりを進めます。
- ・多様な考え方、新たな見方や考え方を受け入れ、一人一人の考え方や活動のよさを認め合う授業づくりを進めます。
- ・学んだことを日常生活と結び付けて考えていくように、児童生徒をよく観察し、興味・関心をつかんだけでも多様な展開となるような授業を推進します。

（2）学校、家庭、地域が連携し、望ましい生活習慣や学習習慣の定着を図る取組を進めます。

＜具体的な取組＞

- ・地域の方の力も借りながら、学校、家庭、地域の積極的な連携を進めます。情報の共有、各種行事などの交流などをできることを検討していきます。
- ・「家庭での会話」時間づくりや学習時間づくりを進めるなど、児童生徒が家庭においても主体的に自らの生活習慣や学習について見直すよう、啓発をしていきます。
- ・ボランティア活動などに参加し、地域との連携を深めることを通して、自らの生き方や身近な地域・社会について深く考えるよう、啓発をしていきます。